

経営比較分析表

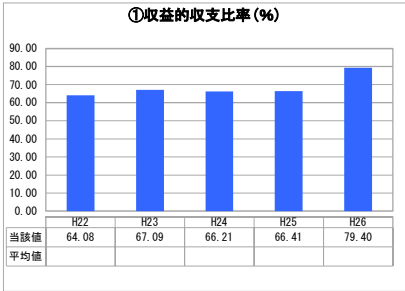
広島県 三次市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.42	100.00	2,937

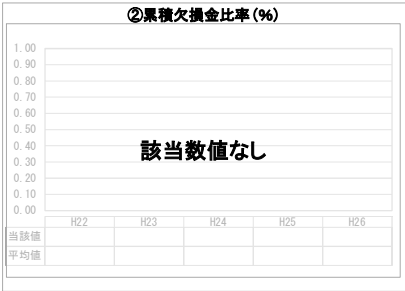
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,302	778.14	71.07
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,075	3.34	1,220.06

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



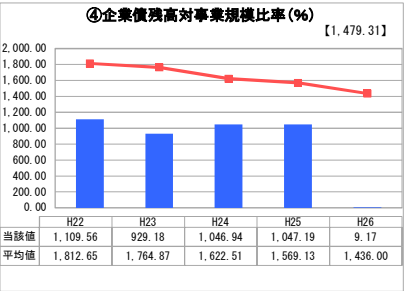
「単年度の収支」



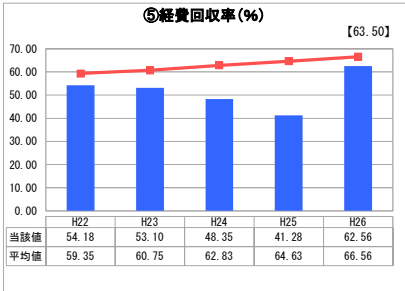
「累積欠損」



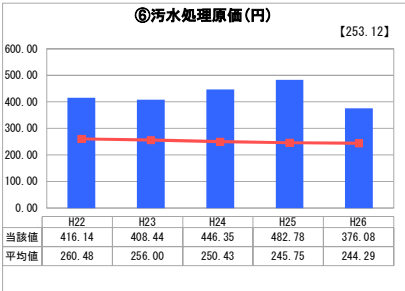
「支払能力」



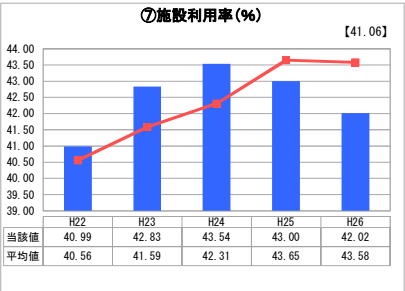
「債務残高」



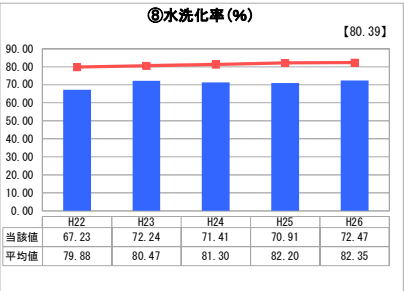
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

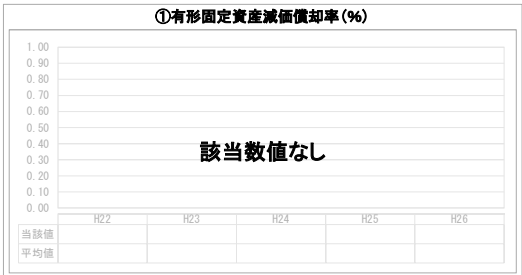


「施設の効率性」

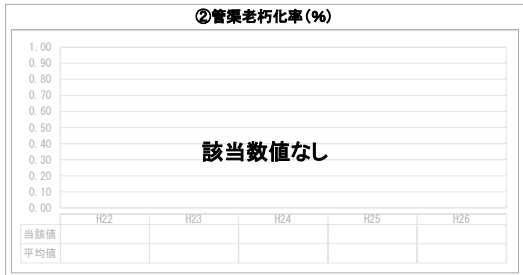


「使用料対象の捕捉」

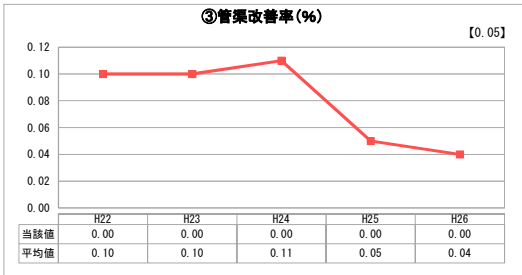
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

●収益の収支比率、企業債残高対事業規模比率
平成26年度は、『収益の収支比率』が80%程度であり、『企業債残高対事業規模比率』は、平均値に比べ低い状況にあるが、引き続き経営の健全性に努める。

●経費回収率、汚水処理原価
中山間に位置する本市は過疎地域であるため、地理的要因により、工事費や維持管理費が割高である。また、8市町村で合併したため処理場の数も多いことから、汚水処理原価が平均値に比べ高い状況にある。今後も、経常的経費の節減と適正な経費回収に努め、処理場の統廃合について検討する。

●施設利用率、水洗化率
下水道工事を始めた時期が他市に比べて遅く、下水道事業計画の変更により、施設利用率や水洗化率に年度間格差がある。平成26年度は、平均値に比べ施設利用率が低いため、加入促進を行い、水洗化率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

平成3年から下水道工事に着手し、平成6年から供用開始しているため、管渠の老朽管更新を行う時期ではないが、計画的な更新に努める。

全体総括

8市町村の合併により、現在6処理場を有しているため、汚水処理原価が高く、経費回収率や施設利用率が平均値に比べ低い状況にある。
今後は、公営企業会計化へ向けて資産を整理し、施設効率の改善や料金体系の見直しを行いながら、処理場の統廃合も視野に入れ、計画的な事業展開に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。
※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。